

**MONOGRAM**®

1/48 SCALE MODEL KIT

**OS2U-2 KINGFISHER**

8921 OS2U-2キングフィッシャー

**ヴォート OS2U キングフィッシャー解説**

第2次大戦に参加した各国の海軍にはそれぞれ、“艦隊の眼”として地味な任務についていた代表的艦載機があった。イギリスのウォーラス、ドイツのAr196、日本の零水偵・零観、そしてアメリカを代表するのがOS2Uキングフィッシャーであった。キングフィッシャー（かわせみ）は大戦全期間にわたって戦艦・巡洋艦及び一部の駆逐艦に搭載され、弾着観測、船団護衛、哨戒、乗員救助などの任務をよく全うしたのである。キングフィッシャーの誕生は1937年3月、アメリカ海軍がヴォート社に発注した新型観測機に始まる。この機体はSOCシーガルに代る機体として発注されたもので、戦艦及び巡洋艦からカタパルト射出できるものであった。ヴォート社は既に1926年に傑作O3Uコルセアをものにしており、経験も充分であったため、早速レックス・B・ベイゼルを中心に設計チームが作られ製作に着手したのである。原型XOS2U-1は1938年7月20日（一説では3月1日）初飛行に成功したが、テストの結果機体の一部に改修が加えられたとはいえ、中翼単葉のその機体は、観測機分野にも新時代が到来したことを関係者達に印象づけたのである。原型機の良好な成績により、量産型OS2U-1の生産が発注され、1940年4月には1号機が送り出され、その年の8月には艦隊に配属されている。1型は1940年中に54機が作られた。これに続いてエンジンをP&W-R-985-50に変えた2型の量産も進められ、158機が送りだされている。さらに防弾装備の強化と自動洩止燃料タンクを備えた3型が1941年から生産に入った。この機体は最も大量に作られたタイプで、1,006機が生産されたのである。加えてフィラデルフィア海軍航空機工廠でも3型に相当する機体が300機作られ、OS2N-1の名称をうけている。キングフィッシャーは1942年中に全ての機体の生産が終り、各艦隊や陸

上基地に配属されたのである。本機は特に水上型と陸上型の区別があった訳ではなく、艦に搭載されて任務についている時にはフロートを装着し、艦が乗員の休養などで入港した時にはカタパルトでうち出され、軍港近くの基地に揚陸された後、脚を取りつける様配慮されていたのである。キングフィッシャーの活躍のうち、乗員救助に示した功績は特筆されるべきものであった。その中でも1942年11月のエディー・リッケンバーカー大尉救出は忘れられないものである。第1次大戦のアメリカのトップエースでもあったリッケンバーカーが搭乗していたB-17が南太平洋上に不時着水するという事故が10月末に起き、それから3週間後に大尉ら3人がキングフィッシャーに発見されたのである。この時、一人は観測席のうしろ、大尉ともう一人が主翼にしがみつき、何と！そのまま40マイル離れた島まで滑水しながら救出したのであった。1945年2月16日、硫黄島攻略に参加した重巡ペンサコラのキングフィッシャー（D・W・ガンディー中尉）が弾着観測中、突然、零戦のダイブ攻撃をうけた。この攻撃をかわしたキングフィッシャーは零戦のうしろに喰いつき、主翼の7.7mm機銃をもってこの零戦を撃墜するという“金星”を挙げたのである。大戦全期にわたって使われた本機も更に高性能のSCシーホークにとって変わられ、その特徴ある機影をカタパルトの上から次第に消していくこととなったのである。

性能諸元 全幅11.0m 全長10.3m 全高4.6m 翼面積24.4㎡  
 総重量2,537kg エンジンP&W-R-985-AN型450馬力  
 最大速度264km/h 実用上昇限度4,000m 航続距離1,300km  
 武装7.7mm機銃×2(主翼右付根×1、旋回×1) 爆弾45kg×2。  
 データは一番多く生産されたOS2U-3のものである。

製造発売元



株式会社

バンダイ

東京都台東区駒形2-5-4  
〒111 TEL(03)842-5151

©1976 BANDAI CO.,LTD.

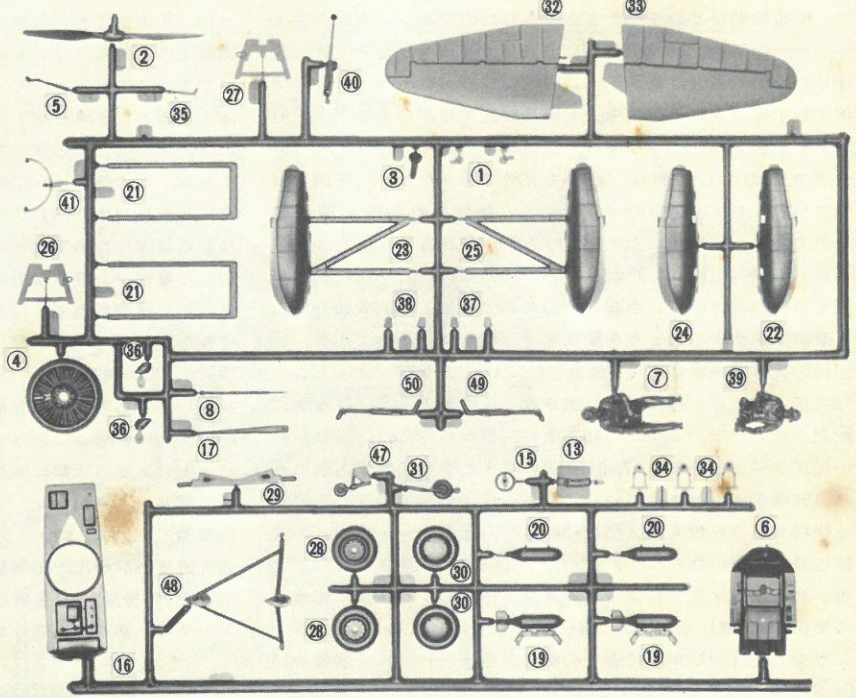
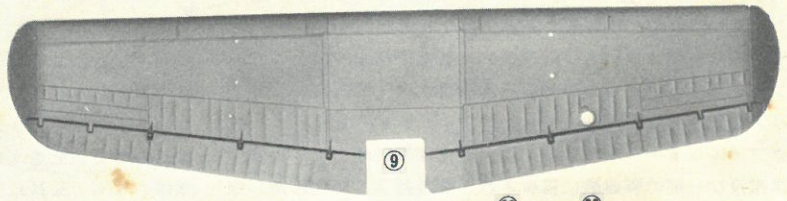
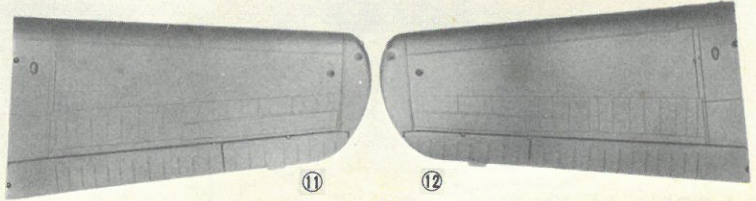
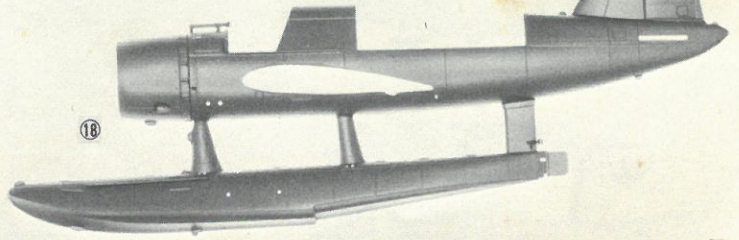
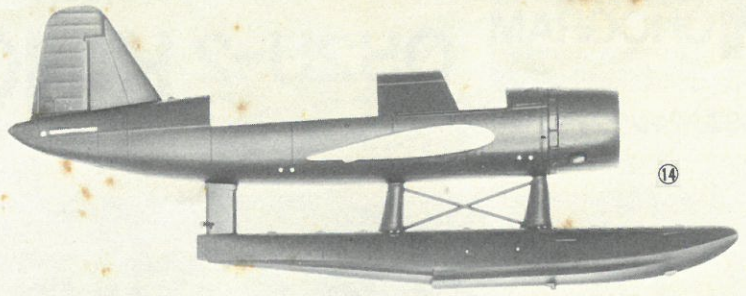
All Rights Reserved under International and  
Pan American Conventions Made under  
License from Monogram Models Inc.

●この商品はアメリカ・モノグラム社の金型を使用し日本で生産したものです。

# 《部品図》

- ①…………カウンターバランス
- ②…………プロペラ
- ③…………プロペラシャフト
- ④…………カウリング
- ⑤…………操縦桿
- ⑥…………コックピット
- ⑦…………パイロット
- ⑧…………ビトー管
- ⑨…………主翼下面
- ⑩…………着陸灯
- ⑪…………主翼上面(右)
- ⑫…………主翼上面(左)
- ⑬…………シート
- ⑭…………胴体(右)
- ⑮…………ルーブアンテナ
- ⑯…………観測手席
- ⑰…………アンテナ
- ⑱…………胴体(左)
- ⑲…………45kg爆弾
- ⑳…………45kg爆弾
- ㉑…………フロート支柱
- ㉒…………フロート(右半分)
- ㉓…………フロート(右半分)
- ㉔…………フロート(左半分)
- ㉕…………フロート(左半分)
- ㉖…………ドリー(左)
- ㉗…………ドリー(右)
- ㉘…………ドリータイヤ(半分)
- ㉙…………ドリー車輪軸
- ㉚…………ドリータイヤ(半分)
- ㉛…………補助タイヤ
- ㉜…………水平尾翼(右)
- ㉝…………水平尾翼(左)
- ㉞…………ステップ
- ㉟…………アンテナ
- ㊱…………排気管
- ㊲…………スペーサー(左)
- ㊳…………スペーサー(右)
- ㊴…………観測手
- ㊵…………後部機銃
- ㊶…………機銃架
- ㊷…………キャノピー
- ㊸…………キャノピー
- ㊹…………キャノピー
- ㊺…………キャノピー
- ㊻…………キャノピー
- ㊼…………尾輪
- ㊽…………主脚補助支柱
- ㊾…………主脚柱(左)
- ㊿…………主脚柱(右)

- 接着剤………… |
- デカール………… |



## 《組み立て上の注意》

- 組み立てる前に一度説明図をよく読みましょう。
- このキットは、水上用と陸上用との2種類の組み立てができます。どちらか一方を選び組み立てて下さい。
- 部品は、ナイフ及びニッパーできれいに切り取りましょう。部品にバリ(余分な部分)がでていたらナイフ、ヤスリ等できれいにけずって下さい。
- 接着剤は部品からはみださないように注意して下さい。はみだした時は、乾いた後ナイフ等でけずり取って下さい。
- ボディ・部品の塗装は、組み立てる前に塗装すれば最高の仕上がりとなります。塗装説明のところを参考にして下さい。
- 常に製品の品質向上に万全を期しておりますが、万一部品の破損、不足、

〒424 静岡県清水市西久保305

TEL 0543-65-5315

株式会社 **バンダイ模型** サービスセンター宛

又はご意見、ご希望がありましたら下記までご連絡下さい。

- 部品を取り出した空袋は幼児がかぶつたりしない様にやぶりすて下さい。

- 接着剤は正しく使いましょう。

家庭用品品質表示法による接着剤品質表示	
取扱い上の注意	1. 幼児の手の届かないところに保存し、いたづらをしてほしくない様注意して下さい。
	2. 火気に注意し、換気をよくして下さい。
	3. 故意に吸わない様注意して下さい。
表示者	SZ3000 SZ3006 SZ5013

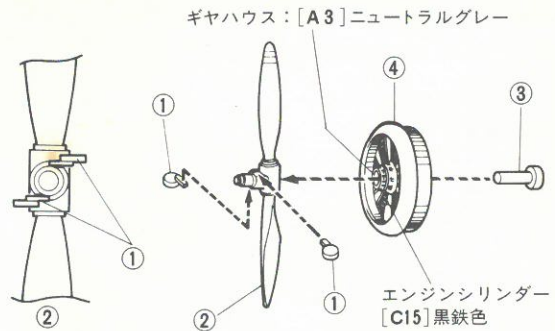
## 《水上用の場合の組み立て》

※陸上用を組み立てたい方は、9図から始めて下さい。

### 1

#### 《プロペラ部の組み立て》

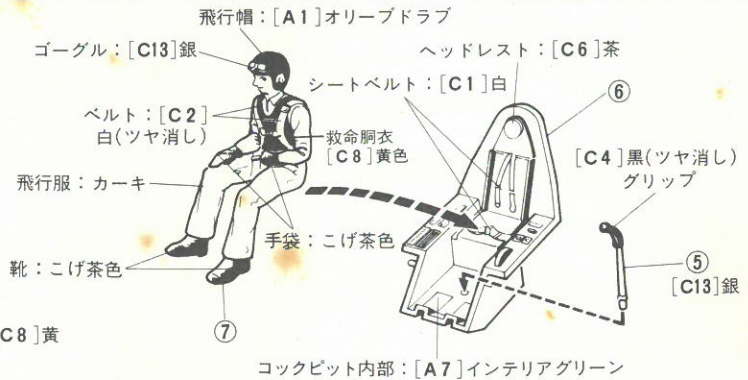
- プロペラ②の図で示された位置にカウンターバランス①を接着して下さい。
  - プロペラシャフト③をカウリング④の穴に通し、シャフトの先端に少量の接着剤をつけてプロペラの穴へさしこみます。
- ※プロペラは回転しますから、接着剤がカウリング部につかないよう注意して下さい。



### 2

#### 《コックピット部の組み立て》

- 操縦桿⑤をコックピット⑥の穴へ接着します。
  - パイロット⑦は塗装をすませたあと、コックピットの座席へ接着します。
- ※どの部品も接着前に塗装をすませてください。

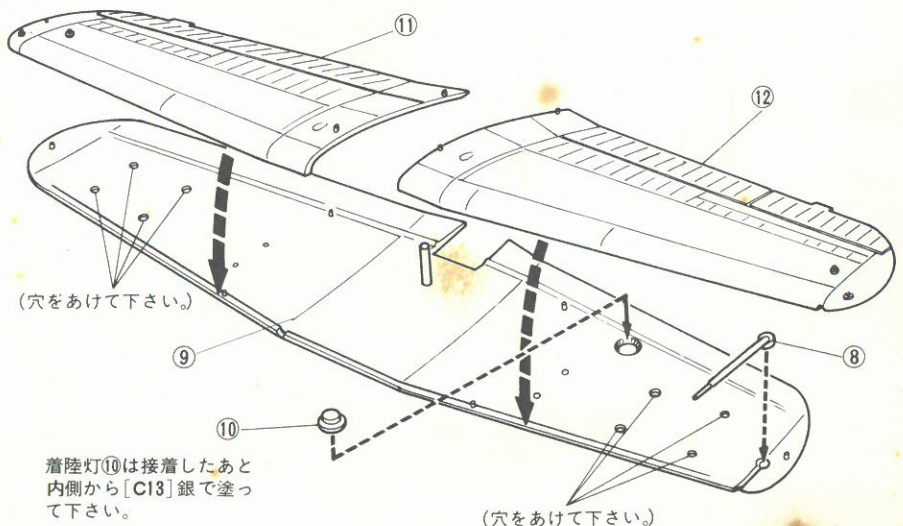


カーキ色: [C2] 白(ツヤ消し)+[C6] 茶+[C8] 黄  
こげ茶色: [C4] 黒(ツヤ消し)+[C6] 茶

### 3

#### 《主翼の組み立て》

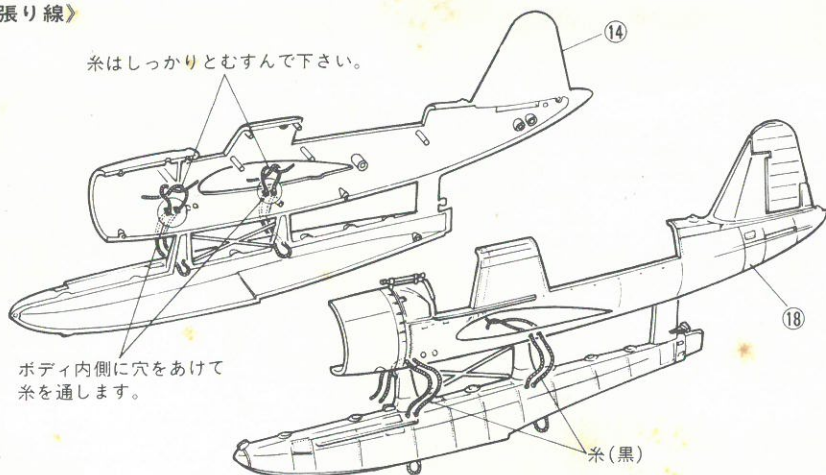
- 主翼下面⑨の図で示された位置にビーター管⑧、着陸灯⑩を接着します。
- 主翼下面に示された左右各4つの穴を焼いた針かピンバイス(ドリル)であけてください。(陸上型を作る場合には穴あけはしないでください。)
- 主翼上面右⑪・左⑫を主翼下面に接着して下さい。



## 4 《胴体及びフロート部の張り線》

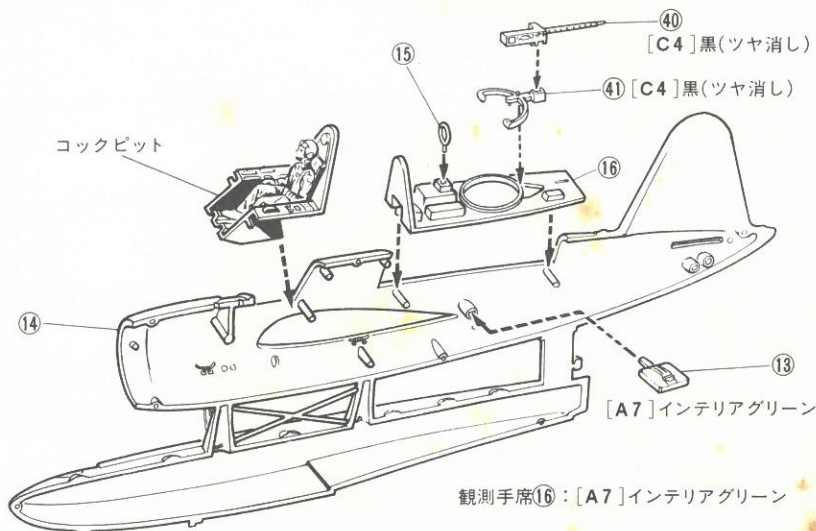
- 胴体右(14)及び胴体左(18)にあげられた穴に、ミン糸(80番程度)を図で示した方法で張ります。

※糸は黒が適当です。また糸はピンと張るよう注意します。多少の糸のたるみは、張り線がしっかりすんだ後、水を含ませた筆で糸を濡らせると、乾燥後ピンとした状態にさせることができます。



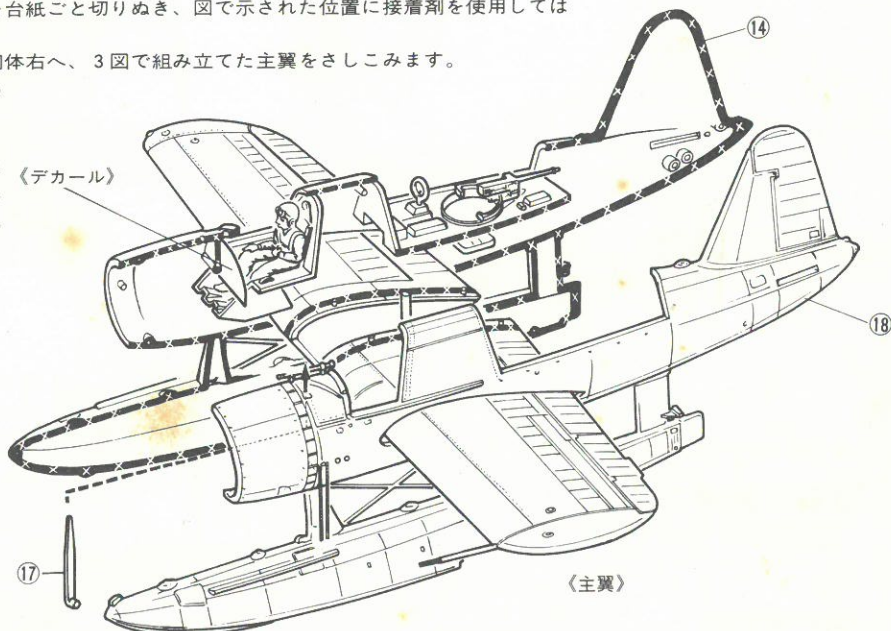
## 5 《胴体部の組み立て》

- 胴体右(14)に観測手席(16)を接着します。同様にシート(13)を所定の位置に接着します。
- ループアンテナ(15)は観測手席の穴へ接着します。位置は自由です。
- 後部機銃(40)を機銃架(41)に接着したあと、観測手席のリングの好みの位置へ接着してください。
- 2図のところで組み立てたコックピットを胴体右のピンにあわせて接着します。



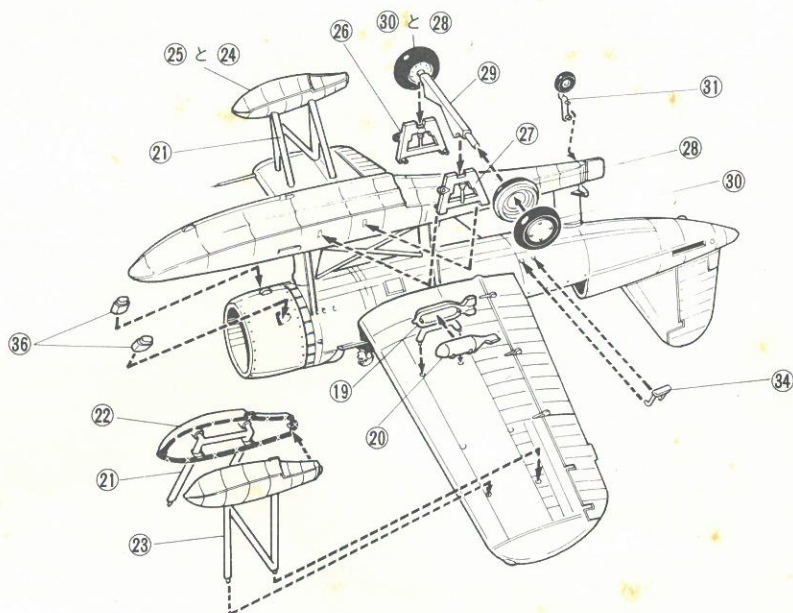
## 6 《胴体と主翼の取り付け》

- デカールの計器板を台紙ごと切りぬき、図で示された位置に接着剤を使用してはります。
- 5図で組み立てた胴体右へ、3図で組み立てた主翼をさしこみます。
- 胴体左(18)の裏側からアンテナ(17)を通し、接着固定したあと、同様に主翼をさしこみ、左右の胴体をしっかりと接着します。



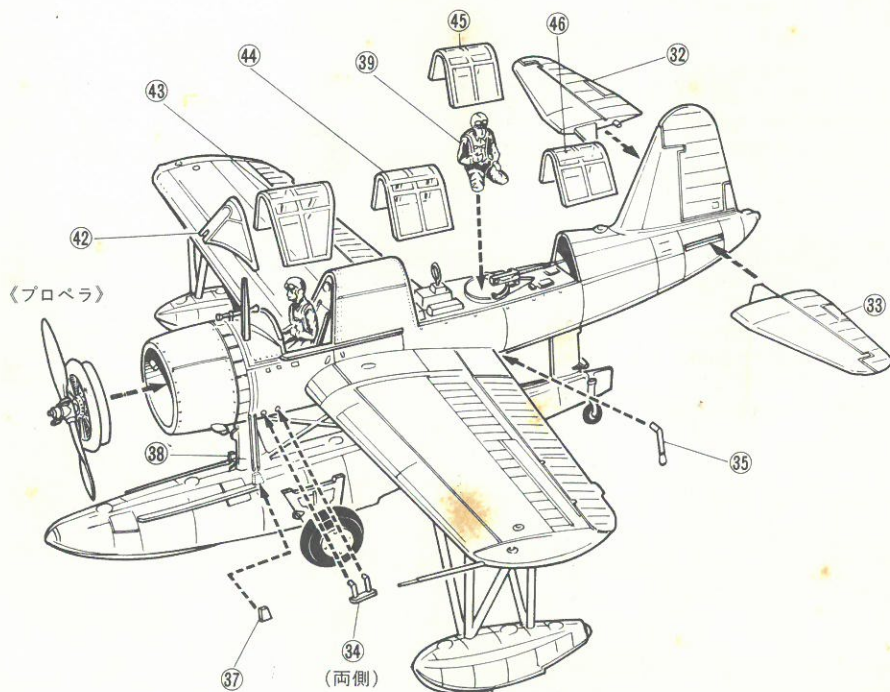
## 7 〈補助フロート及びアクセサリーの取り付け〉

- フロート支柱②①のピンをフロート左半分②②の取り付け穴に接着したあと、フロート右半分②③へ接着してください。
- 補助フロート左も同様に部品②①・②④・②⑤を組み立てたあと3図であけた取付け穴にしっかりと接着します。
- 45kg爆弾①⑨・①⑩を接着したあと、主翼下面の取り付け穴に接着します。(2個組み立て、左右の主翼下面に接着します。)
- 排気管③⑥を機首下面の取り付け穴へ接着します。
- ドリー左②⑥と右②⑦を主フロートの穴に接着します。さらにドリー車輪軸②⑨を、ドリーのみぞにあわせて接着します。
- ドリー・タイヤ②⑧・③⑩をそれぞれ接着したあと、車輪軸へ接着します。補助タイヤ③①をフロート尾部の取り付け穴に接着してください。
- ステップ③④を胴体の取り付け穴に接着します。



## 8 〈キャノピー及び尾翼の接着〉

- 観測手③⑨を観測手シートに接着します。向きは自由です。(2図のパイロットと同じ様に塗装してください。)
  - 水平尾翼右③②・左③③を胴体の取り付け穴にしっかりと接着します。
  - キャノピー④②・④③・④④・④⑤・④⑥を胴体の所定の位置に接着します。ただし④③の位置は自由です。
- ※ 観測手席のキャノピーを開状態にする場合、キャノピー④⑤は前にスライドしますので、④⑤を観測手席前部に接着したあとキャノピー④④をかぶせるよう接着します。
- ステップ③④及びアンテナ③⑤を胴体に接着します。
  - スペーサー③⑦、③⑧をフロートの張り線根元にそれぞれ接着してください。(4箇所)
  - 最後に1図で組み立てたカウリングを機首先端に接着して完成です。



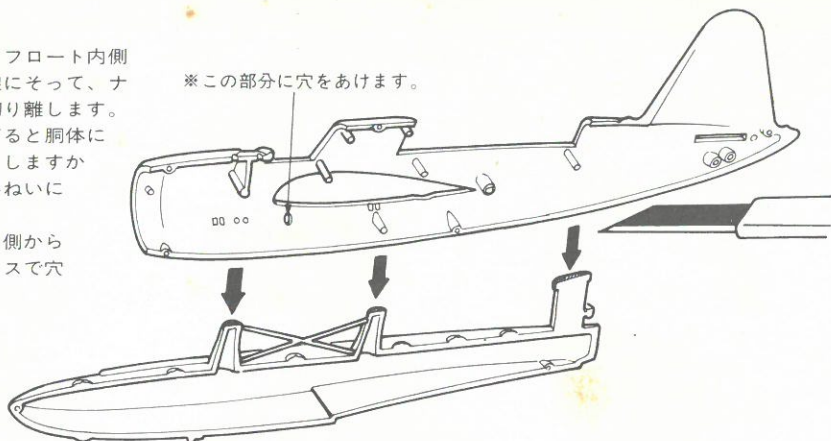
# 《陸上用の場合の組み立て》

## 9 <フロートの切断>

- 胴体と一体になったフロート内側から、胴体下面の線にそって、ナイフでフロートを切り離します。

※あまり力をいれ過ぎると胴体にヒビ割れを生じたりしますから、ゆっくりとていねいに作業してください。

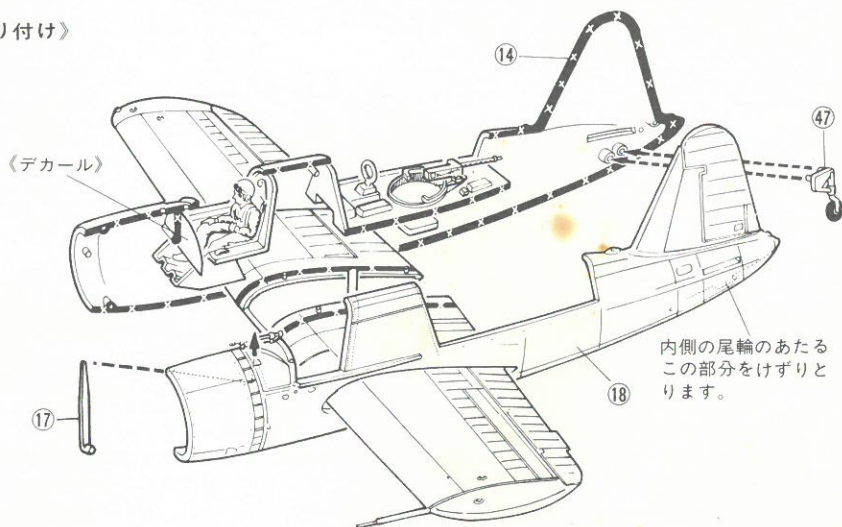
- 図で示された穴を内側から焼いた針かピンバイスで穴あけします。



## 10 <尾輪・アンテナの取り付け>

- 尾輪④⑦のピンを胴体右の取り付け穴へ接着します。尾輪支柱のあたる胴体部のへこんだ部分をナイフで削り取ります。

- アンテナは胴体左側の穴へ内側から通し、アンテナ根元のピンを穴に接着します。



## 11 <主脚の取り付け>

- 図で示した主脚補助支柱取り付け穴を2箇所あけてください。

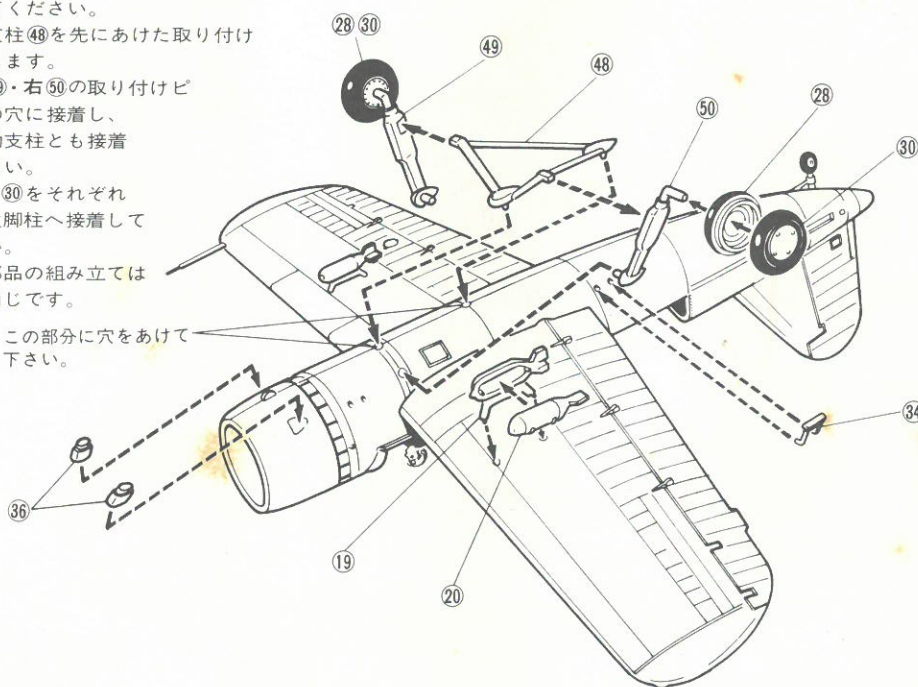
- 主脚補助支柱④⑧を先にあけた取り付け穴に接着します。

- 主脚柱左④⑨・右⑤⑩の取り付けピンを胴体の穴に接着し、さらに補助支柱とも接着してください。

- タイヤ②③をそれぞれ接着し、主脚柱へ接着してください。

- その他の部品の組み立ては水上型と同じです。

この部分に穴をあけて下さい。



# 塗装とマークの説明

キングフィッシャーの塗装は当時のアメリカ海軍機の制式塗装に準じていました。本機が部隊配属された頃は胴体全面および主翼下面は銀塗装（海軍機の場合、塩害による機体外板の腐蝕を防ぐため、必ず銀塗装されていました。）主翼上面がクロームイエローという、軍用機とは思えないカラフルな塗装がなされています。主翼のクロームイエローは下面前縁までオーバーラップされて塗られています。主翼上面に描かれた黒の線はウォークウェイを示すもので、翼のうち、線で囲まれた部分だけが歩行できることをあらわしています。更に機首及び胴体に白や赤の帯（飛行隊カラー）を塗り、水平・垂直尾翼もブルーや黒を塗った機体も多くみられます。胴体の帯の上に描かれた文字は、例えば3-0-4の場合、真中の0はObservationすなわち観測飛行隊、最初の3は第3観測飛行隊、最後の4は4号機を示しています。もちろん飛行隊全機が同一艦に搭載されているのではなく、幾隻かの艦に分遣されていました。このような派手な塗装は、万一事故などで不時着水した時など機体の捜索を容易にさせるためのものですが、他の海軍機同様、1940年末頃から全面ライトグレー一色という地味な塗装に移行します。わずかに胴体に白で描かれた機体文字と垂直尾翼の赤7・白6本のストライプが目につく程度になります。更に1941年10月13日から、機体上面をブルーグレーに塗る様指令が出されました。加えて機体文字も黒に変更され、垂直尾翼のストライプも塗りつぶした機体も加わって一層地味な塗装となります。1941年の真珠湾空襲前後のキングフィッシャーは殆んどこの塗装です。但し、アメリカ本土で使われた機体では、主翼上面をイエローで塗った例がかなり後まで使われています。1943年2月1日付けで、キングフィッシャーも他の海軍機同様、低視度迷彩、すなわちスリートーン迷彩が適用されます。下面がツヤ消し白、上面がツヤ有りのシーブルー、胴体側面が先の2色を混合して作った半ツヤ消しのインターメディアイトブルーで機体に塗って迷彩効果をはかったものです。一方、オーストラリアやイギリス海軍で使われたキングフィッシャーはアメリカ海軍と同じ塗装の他、その国の仕様でカモフラージュ塗装されたものの両方が使用されました。キングフィッシャーにはその機体の性格上、撃墜マークとか個人マークといったものが描かれた機体は殆んどありません。

## 《細部の塗装》

- プロペラ……[C13]銀、裏[C4]黒(ツヤ消し)……初期全面[C4]黒(ツヤ消し)……大戦中
  - プロペラ先端……外側から[C5]赤・[C8]黄・[C11]青各2mm幅……大戦初期まで
  - プロペラハブ及びカウンターバランス……[C13]銀又は[C4]黒(ツヤ消し)
  - エンジン……[C15]黒鉄色
  - ギア・ハウス……[A3]ニュートラルグレー
  - コックピット内部……[A7]インテリアグリーン
  - シートベルト……[C2]白(ツヤ消し)
  - 機銃及び機銃架……[C4]黒(ツヤ消し)
  - ガンサイト……[C4]黒(ツヤ消し)
  - 各ステップ……[C4]黒(ツヤ消し)
  - ドリー……[A7]インテリアグリーン又はブルーグレー（[A3]ニュートラルグレー+[A5]シーブルー）
  - タイヤ……[C4]黒(ツヤ消し)
  - 爆弾……[C8]黄又は[A1]オリブドラブ
- 資料・解説・塗装指導・野中寿雄

## プラ塗料の本格派 モノグラム・カラー

●良いモデルには良いカラーを…。

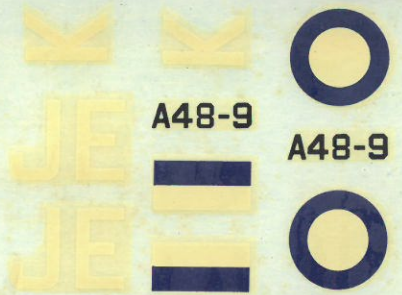
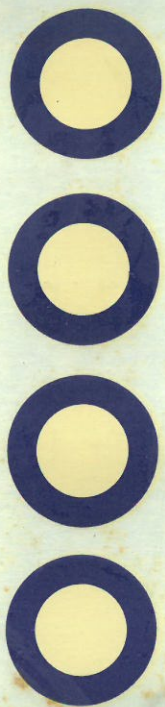


- モノグラム・カラーは、プラスチックモデル専用の塗料です。飛行機、戦車、船、自動車とあらゆるプラスチックホビーのペインティングにご利用下さい。
- カラー基本色も60種と豊富にそろっています。

18ml缶入 ¥100

●お近くのデパート又は小売店でお求め下さい。

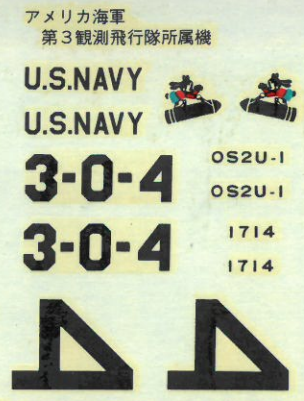
1/48 OS2U-キングフィッシャー



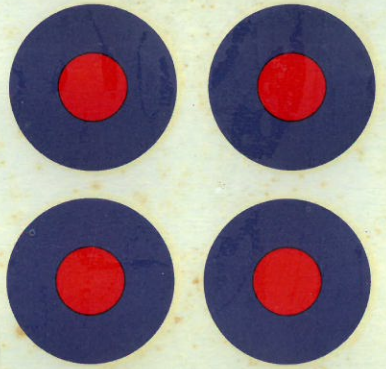
オーストラリア空軍 第107中隊所属機



アメリカ海軍  
第4沿岸哨戒飛行隊機



アメリカ海軍  
第3観測飛行隊所属機



ROYAL NAVY  
FN678

ROYAL NAVY  
FN678



ROYAL NAVY  
FN668

ROYAL NAVY  
FN668



U.S.NAVY  
U.S.NAVY  
2276 2276

アメリカ海軍所属機

